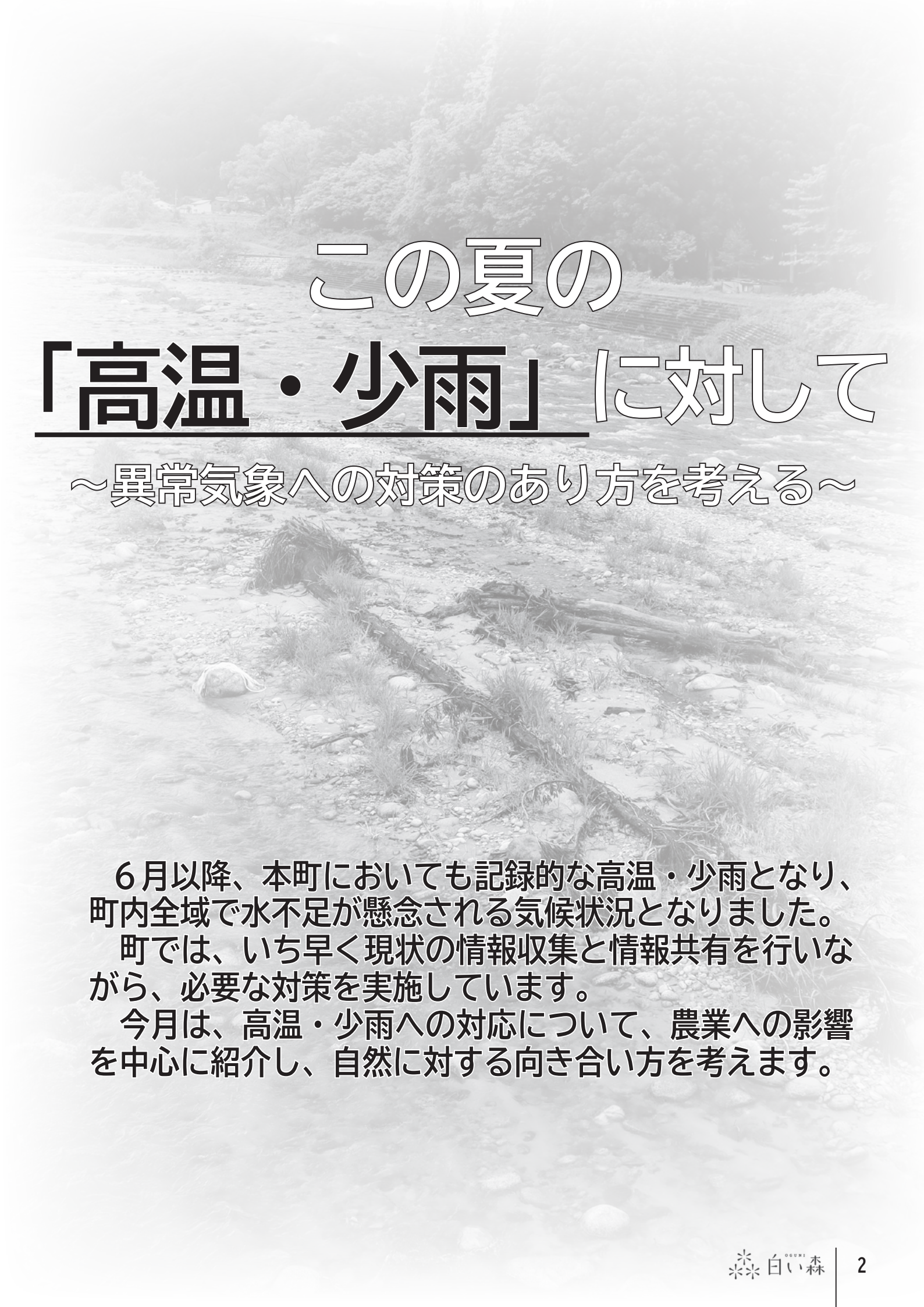




この夏の 「高温・少雨」に対して

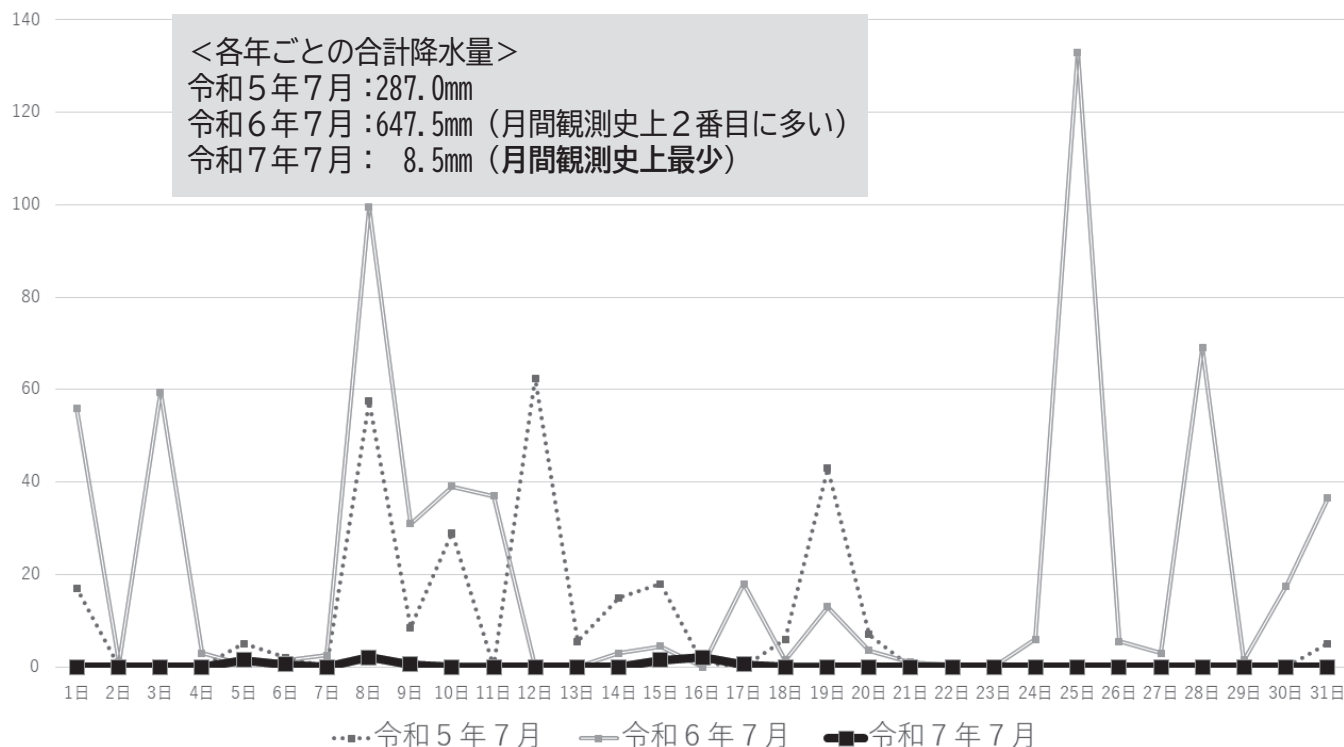
～異常気象への対策のあり方を考える～

6月以降、本町においても記録的な高温・少雨となり、町内全域で水不足が懸念される気候状況となりました。

町では、いち早く現状の情報収集と情報共有を行いながら、必要な対策を実施しています。

今月は、高温・少雨への対応について、農業への影響を中心に紹介し、自然に対する向き合い方を考えます。

直近3年間における7月の降水量（単位：mm）



（気象庁HP 過去の気象データより）



▲町民プールの開放中止を知らせる案内

記録的な高温・少雨

本年7月は本州付近への太平洋高気圧の張り出しが強く、晴れて高温になった日が多かったこと等により、日本全国において記録的な高温・少雨となりました。本町の7月の高温・少雨の状況については、最高気温が30℃を超える日が27日間記録され、7月30日には本町観測史上2番目の高さとなる37.7℃（最も

町における対応

高くなったのは1994年8月16日に観測した38.0℃）を観測するなど、これまでに経験したことのないような高温を記録しました。少雨については、月降水量が観測史上最少となる8.5mm（2番目は1985年8月に観測した14.0mm）を記録し、高温と同じく記録的な少雨となりました。

このような状況を踏まえ、町ではいち早く情報共有し対応を行っており、町長をトップとした渇水対策にかかる会議を、7月上旬から8月上旬にかけて9回開催しました。7月9日に実施した第1回の会議においては、影響を最小限にとどめるための方策として、町民プールの開放見送り、上水道における水源地および配水池の水位低下に伴う深夜の時間帯での給水調整、防災

特集 この夏の「高温・少雨」に対して ～異常気象への対策のあり方を考える～

ラジオや町ホームページ等による節水の呼びかけを決定し、実施しました。特に、町民プール開放中止と給水調整については、町民の皆さまのご理解とご協力をいただいたことから、この間の状況として、大きなトラブルなく対応することができました。舟山昭二さん（あけぼの）は「7月から雨が全く降らず、水不足になるのではないかと心配していましたが、給水調整などもあり、料理や入浴などの



▲松岡頭首工で行われた河床整正工事の様子

時も、問題なく水を使うことができました。」と話してくださいました。その後8月に入って降雨があったため、水源地の水位が回復し、8月8日をもって給水調整を解除しました。

また、本会議においては、水資源の安定供給が必要な農業施設の状況確認も行われ、高温・少雨による影響に対応するため、農業用水を取水している松岡頭首工の河床整正（流下能力を向上させるため、河床の凸凹を整えること）工事や、かんがい用水の汲み上げにかかる許可申請など、緊急の取り組みを実施しました。

水稻における 渇水の現状

この記録的な高温・少雨により、適切な気温・水管理が必要とされる農作物は大きな影響を受けています。町内のコメ作りおよび水田の状況に



▲伊藤孝太郎さん

ついて、水稻農家の伊藤孝太郎さん（田沢頭）にお話をうかがいました。「今期は豪雪だったこともあり、春先にかけては雪解け水が豊富で当初は生育状況も順調でした。しかし、6月ごろからの少雨により、稲から新たな茎が生え、稲が枝分かれをしていく『分げつ』の段階で水不足の状態となりました。この状態は、最も水を必要とする7月末から8月にかけての出穂期においても続いているため、生育

が順調に進まず、通常より1週間から10日ほど遅れていきます。田沢頭地区はもとも山のふところが浅く、水資源に乏しい地区ではありますが、今回の渇水は今までに経験がありません。この高温・少雨の状況が、コメの収量・品質にどれだけ影響するか心配です。」

また、同様に町内でコメ作りを行う農家の佐藤義昭さん（舟渡）は「水田の水管理については、農業用水として利用した後に出る排水も再利用して管理を行っています。今年は特に雨が少なかったために、用水路から離れた場所の稲は、水不足が生育に大きく影響しており、先端が茶色く枯れてしまった稲もあります。現在は、順調に生育している稲を優先的に水の管理を行うといった対応をとっています。」と今期の状況についてお話しくださいました。

このように、町内各地にお

特集 この夏の「高温・少雨」に対して ～異常気象への対策のあり方を考える～

いて顕在化している高温・少雨による水田への影響とこれからの予測について、町内農家の収益性向上と本町農業の活性化に向け、日頃から町内農家のかたからの相談や、現場の確認などに丁寧に対応いただいている置賜総合支庁産業経済部西置賜農業技術普及課専門普及指導員の高橋航平氏にお話をうかがいました。「渇水で用水が確保できなかった圃場では、水不足の影響で葉が針状に巻く症状が見ら



▲佐藤義昭さん

れました。8月上旬の降雨で回復してきましたが、一部の稲株で出穂が遅れるなどの症状が残り、同じ田んぼの中でも、出穂時期に大きなズレが生じています。出穂時期の早晩によって登熟の進み具合が大きい場合、粒数が減少して減収する場合があります。生育の状況や今後の管理方法等については、引き続き、当課に相談していただきたいと思います。」



▲高橋航平専門普及指導員

自然と向き合う

町では、この状況に対応し、農家等を支援するため、本年7月29日に「令和7年度小国町渇水被害対策緊急支援事業費補助金」を制定し、本年6月以降の渇水における、かんがい用機械等の借上げまたは購入、燃料費に要する費用の一部を助成することとしました。また、田沢頭地区の農業用水の貯水と、豪雨などによる洪水被害を防止することを目的として、昭和59年に造られた田沢頭ため池について、今年度より水底の土砂を引き上げるしゅんせつ工事を実施し、貯水量の確保と、洪水などの水害の被害防止を図っていきます。

地球温暖化などに伴う異常気象により、今後も発生する可能性のある災害に対しては、被害発生時と発生後の対応を適切に行い、被害を最小

化していくことが求められます。予測が難しい自然と向き合いながら、町民の命や財産を守っていくため、これから町ではすみやかな情報収集と情報共有を進め、経済的な支援をはじめとして、国や県などといった関係機関とも連携を図りながら、災害への迅速な対応と被害防止に努めていきます。



▲しゅんせつ工事を開始する田沢頭ため池